

# 企画展「むかしの人はどんな道具を使っていたの？」

会期 2014年4月1日（火）～10月13日（月・祝）

## 後期展出品目録

後期展会期 2014年7月8日（火）～10月13日（月・祝）



本展では、小学校3・4年生の社会科の授業内容に合わせて、当館収蔵の生活用具（民俗資料）を展示し、それぞれの用途や歴史に加え、道具の変遷についても分かりやすくご紹介します。

「衣食住」を中心とし「昔の風景」「遊」「商」「農」「年中行事」のゾーンに分けて展示し、ちゃぶ台を中心とした居間の風景も再現しています。

### <高岡写真展 ～昔の風景と子供たち～>

No.	資料名称	点数	寸法 (cm)	備考	所蔵 (寄贈者名)
1	写真「高岡山瑞龍寺」	1	-	明治期の瑞龍寺。	高岡市
2	写真「高岡駅」	1	-	大正期の高岡駅前。	高岡市
3	写真「児童の給食」	1	-	昭和6年（1931）の児童の給食の様子。	高岡市
4	写真「校舎と子供たち」	1	-	昭和初期の太田小学校を背景に、子供たちの集合写真。	高岡市
5	写真「開町350年・市制70周年記念行事 高岡まつり」	2	-	高岡開町350年と高岡市誕生70周年を迎えた昭和34年（1959）に行われた高岡まつりの様子。	高岡市

### <子供たちの遊び道具>

6	ブリキ製玩具	8	-	ブリキ製のバイクや汽車などの玩具。ゼンマイを巻くなどして動かす。	神保成伍氏蔵
7	羽子板	3	-	正月に羽根を打って遊ぶ道具。鑑賞用の羽子板は厚紙で形を作った後、布の中に綿を入れて盛り、板に貼り付けたものである。	当館蔵 (中井七郎氏)
8	玩具「高岡獅子頭」	1	奥行21.0×幅35.0 ×高26.0	赤の獅子頭。高岡獅子頭は、富山獅子頭や祭礼の獅子舞を玩具化したもの。高岡仏師が余技として作るようになった。高岡仏師を継承した為中為男氏の昭和48年（1973）作。	当館蔵
9	郷土木製玩具	13	-	山形県鶴岡市・神奈川県鎌倉市・岐阜県高山市・香川県高松市など全国の木製の玩具。	当館蔵
10	郷土土人形	5	-	土を焼いて作った全国の伝統工芸品。胡粉（貝殻の粉）を付け、泥絵具で彩色する。宮城県気仙沼市などの土人形。	当館蔵

### <商売の広告>

11	引札「高岡市川原町 柴田竹次郎」	1	縦25.6×横37.6	商店などが宣伝のために作った広告。色鮮やかな絵柄が特徴で、「海産物商／并ニ／仕出し」とある。	当館蔵 (室崎信一氏)
12	広告「矢野動物園」	2	-	明治後期に発足した矢野巡回動物園の広告。動物のリストと動物を描いたものである。矢野巡回動物園は昭和3年（1926）まで営業した。	当館蔵

### <遊び道具のメンコ>

13	メンコ	37	-	メンコ同士を当てるなどして遊んだ。昭和20年代の丸メンコと昭和40～50年代の角メンコ。	神保成伍氏蔵
14	メンコ綴	1	縦19.8×横25.9	大小11点のメンコがセットになっている。「鉄人28号」や「鉄腕アトム」などが描かれている。	神保成伍氏蔵
15	豆本	3	-	昭和50年代の菓子の付録。「にんじゅつ」「月光仮面」「ちびまる」の3点。	神保成伍氏蔵

< 田んぼの農具 >

No.	資料名称	点数	寸法 (cm)	備考	所蔵 (寄贈者名)
16	ラチウチキ (ラチ打ち機)	1	奥行138.2×幅 51.4	田植えの後、雑草を刈り取る農具。「ラチ」とは植えられた稲と稲の間の空間のことを指す。	当館蔵
17	マンガ (馬鍬)	1	奥行80.1×幅81.3 ×高64.4	荒起こしの後に水田の雑草を刈り取る農具。牛や馬に曳かせた。マグワとも。	当館蔵

< 服とはき物 >

18	モジリ	1	身丈84.0×衿58.5 ×袖丈26.0	巻袖の別名 (モジソデ・ムジリ・ネジリとも)。袖下を斜めにねじり上げた形からきた呼び名。	当館蔵 (吉田元太郎氏)
19	ソデナン	1	身丈58.5×衿21.5	袖が無く羽織った服。一年中着られるが、冬の防寒用は綿を入れたものだった。	当館蔵 (本房繁治氏)
20	ワラジ (草鞋)	1	幅8.8×長24.4× 紐46.3	長距離を歩くための履物。長い緒を使って足首に巻いて固定した。稲のワラで作られている。	当館蔵 (邑本順亮氏)
21	ゲタ (下駄)	1	奥行23.5×幅11.0 ×高7.5	晴れた日も雨の日も履くことができる履物。木製。男性用。歩くと駒 (馬) の足音のように聞こえたことから、駒下駄とも呼ばれた。	当館蔵 (横山宏平氏)
22	アシタ (足駄)	1	奥行22.1×幅9.5 ×高13.0	底の歯の部分が高く、雨の日履いた物。木製。女性用。	当館蔵 (神保成伍氏)

< 食を支えた道具 >

23	写真「酒樽」	1	径34.0×高20.9	酒を入れておいた道具。祭礼などの行事で酒がふるまわれた。木製。	当館蔵 (小竹勇一氏)
24	写真「イロリ (囲炉裏) と カマド (竈)」	1	-	重要文化財武田家住宅 (高岡市太田) の台所風景。	当館蔵
25	ハガマ (羽釜)	1	径29.7×高23.8	ご飯を炊いたり、お湯を沸かすための道具。カマドに掛けるツバ (鏝) が羽のように見えることから「ハガマ」と呼ばれた。	当館蔵 (宮野宗雄氏)
26	SW式自働電気炊飯器	1	径27.4×高21.8	電気炊飯器の前身。昭和10年代製。木製のオヒツの底にアルミ板が貼り付けられ、電気差込口がある。	当館蔵 (荒田みさを氏)
27	電気炊飯器	1	径26.7×高26.5	昭和30年代のナショナル (松下電器産業株式会社) 製。タイマーを使用して炊飯できた。	当館蔵 (日尾清作氏)
28	ジザイカギ (自在鉤)	1	縦9.5×横36.3× 厚4.9	イロリの上に吊るし、鍋やテツピンなどを掛けるもの。鯉の彫刻が施されている。	当館蔵
29	テツピン (鉄瓶)	1	径16.6×高21.2	お湯を沸かす道具。イロリや火鉢の中で、五徳にのせて使われた。鉄製。	当館蔵 (本沢義則氏)
30	写真「鉄鍋」	2	-	みそ汁や煮物を作るための道具。イロリやカマドにのせて温めた。鉄製。	当館蔵 (筏井晴夫氏)
31	卓上コンロ	1	幅26.0×高7.3	鍋などを温めるための持ち運び式の卓上コンロである。昭和30年代のナショナル (松下電器産業株式会社) 製。ガスホースからプロパンガスを供給して着火させた。	当館蔵 (高岡ホテル)
32	菓子箱「森永ミルクキャラメル」	2	-	森永ミルクキャラメルの菓子箱とキャラメル箱60個を収納できた大箱である。	神保成伍氏蔵

< 年中行事 >

33	獅子舞衣装	2	-	獅子舞の際の獅子役のハンテンと天狗役の槍。	当館蔵 (下二上青年団)
34	獅子頭	1	幅58.6×奥行42.6 ×高44.2	高岡市内免神明町の獅子舞で使用された黒獅子。昭和26年 (1951) 井波の彫刻家・野村清雲 (清太郎) の作。	当館蔵 (高岡市内免神明町獅子舞保存会)

<身近な生活道具 I >

No.	資料名称	点数	寸法 (cm)	備考	所蔵 (寄贈者名)
35	アンカ (行火)	1	径23.5×高17.7	中に炭火を入れて、手足を温める道具。ふとんやこたつの中に入れた。陶製。	当館蔵 (中井七郎氏)
36	コタツヤグラ	1	奥行50.0×幅50.2×高33.4	コタツヤグラの上にふとんをかけ、ヤグラの中には炭火を入れたアンカなどを置いて、暖をとった。	当館蔵 (金刺亀太郎氏)
37	写真「提灯」	1	口輪19.7×径44.6×底輪19.6	中にロウソクを入れて明るくした道具。火袋は折り畳みが可能である。	当館蔵 (米森米太郎氏)
38	写真「懐炉・楠灰」	2	-	身体を温める携帯用の懐炉と燃料の楠灰。金属製の容器の中に入れた楠灰に火をつけて使った。油を燃料とした懐炉が登場する昭和10年代まで使用された。	当館蔵 (永田市平氏)
39	幻灯機	1	奥行28.1×幅18.4×高28.2	ロウソクやランプの明かりで、ガラスに描かれた画像を映し出した。レンズ、ガラスを装着するスライド、光源から発生する熱を逃がすための煙突がある。	当館蔵 (室崎信一氏)
40	配置薬箱・配置薬	1	-	配置薬(置き薬)を収納していた。配置薬は江戸時代以来、富山で盛んに行われ、高岡でも盛んだった。始めに薬を配置し、使用した分の薬の金額を後払いした。	神保成伍氏蔵
41	竿秤	1	長78.5	てこの原理を利用する秤。竿の先端に量る物を吊るす鉤と手で支えるための紐があり、おもりを左右にずらして量る。	当館蔵
42	上皿竿秤	1	幅54.8×奥行25.0×高27.6	重さを量るために使用された。上皿・目盛竿・おもり台で構成され、おもりは9点ある。重さを量る際は、物を上皿に載せ、おもり台におもりを加える。竿が水平に達した際に、目盛竿の送りおもりを移動させ、微調整をして計量した。	当館蔵 (藤平和子氏)
43	上皿自動秤	1	幅21.0×奥行25.6×高27.2	上皿に物を載せて量った。最小2匁(10g)、最大800匁(3kg)まで量ることができる。	当館蔵 (朝日勢津子氏)
44	写真「箱枕」	1	奥行13.7×幅22.5×高17.5	寝る時に使った道具。江戸期に髻を崩さないよう首をのせていたが、明治期以降も使用された。	当館蔵 (大坪正夫氏)
45	火鉢	1	径31.6×高29.6	部屋を暖めたり、お湯を沸かす道具。中に灰を入れ、炭に火をつけて使用した。	当館蔵 (五嶋孝一氏)

<再現、ちゃぶ台の間>

46	柱時計	1	奥行9.8×幅27.3×高42.3	柱に掛けられた時計。ゼンマイで動き、调速のための振りがある。	個人蔵
47	ちゃぶ台	1	径74.3×高25.6	円形の食事用の座卓。お膳を使用していた食事からちゃぶ台を囲む食事により、一家団らんの形が浸透していった。	当館蔵
48	アルミ製水筒	1	縦10.4×横10.6	子供用。昭和35年(1960)～同36年頃に使用された。学校の遠足や運動会などに持って行った。その後、プラスチック製やステンレス製のものに変わっていった。	当館蔵 (藤井喜代乃氏)
49	たんす	1	奥行32.2×幅76.2×高80.3	物を収納する引き出しや扉を備えた家具。木製。服や道具を入れていた。	当館蔵
50	黒電話	1	奥行22.7×幅14.7×高13.0	昭和40年代のダイヤル式の黒色の電話。	当館蔵
51	竹かご	1	奥行10.4×幅17.2×高41.2	瓶を入れて持ち運んだ竹製のかご。ビール瓶などを入れた。	神保成伍氏蔵
52	ラジオ	1	奥行14.8×幅26.3×高18.1	無線通信を使って音声を受信する道具。ナショナル(松下電器産業株式会社)製。ラジオから様々な情報を入手できた。	当館蔵 (高橋敏治氏)
53	電気ポット	1	口径8.7×底径10.9×高18.8	電気でお湯を沸かす。昭和20～40年代の東京芝浦電気(東芝)製。	当館蔵 (日尾清作氏)

<身近な生活道具Ⅱ>

No.	資料名称	点数	寸法 (cm)	備考	所蔵 (寄贈者名)
54	写真「有明行灯」	1	幅25.5×高33.3	持ち運びができる照明道具。油の入った皿に、綿糸などで作った芯を入れて点火した。貼られた紙は明るさを調節したり、風が入り込むのを防いだ。	当館蔵 (大場良吉氏)
55	写真「手燭」	1	奥行19.8×幅10.1 ×高13.2	ロウソクを立てて持ち運ぶ照明器具。	当館蔵 (米澤暢晃氏)
56	火のし	1	径12.7×長37.2	中に炭火を入れ、その熱で布などのシワをのばす道具。先を収納する布袋も付属している。火のしは江戸時代から昭和中期まで使用された。	当館蔵 (五嶋孝一氏)
57	炭火アイロン	1	奥行14.8×幅7.5 ×高16.8	火のしと同様に炭火を使用した。鉄製。熱が伝わらない木製の取手・空気を取り入れる煙突・熱を出す空気穴がある。炭火アイロンは明治期より普及した。	当館蔵 (室崎信一氏)
58	蒸気 (スチーム) アイロン	1	奥行15.1×幅8.3 ×高12.4	水を入れた吸入器を温めて、ゴム管を通った蒸気でシワをのばすことができた。電気アイロンの前身。英商店販売。スチームアイロンは昭和初期から普及し始めた。	当館蔵 (邑本順亮氏)
59	陶製湯たんぼ	1	奥行16.9×幅29.8 ×高15.8	中にお湯を入れ、身体を温める道具。やけどしないよう布に巻き、ふとんの中に入れた。	当館蔵 (神保成伍氏)

計 59件128点

### 凡例

※資料番号が太字のものが、後期展よりの展示資料。

※寸法は、複数の資料の場合は省略し、写真展示の資料は原物の値を採った。

### 引用

※大舘勝治・宮本八重子著『いまに伝える農家のモノ・人の生活館』（桂書房，2004）

### 参考文献

※文化庁編『民俗資料調査収集の手びき』（第一法規出版株式会社，1965）

※文化庁文化財保護部監『日本民俗資料事典』（第一法規出版株式会社，1969）

※日本民具学会編『日本民具辞典』（ぎょうせい，1998）

※岩井宏實監『日本の生活道具百科』（河出書房新社，1998）

※『砺波の民具』（砺波市立砺波郷土資料館，2006）

※岩井宏實監『絵引民具の事典』（河出書房新社，2008）

※『小学社会3・4上』（教育出版，2011）